

## 平成23年10月の解説（週間天気予報）

### 【10月の天候状況】

北日本から西日本では低気圧と高気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変わりました。上旬は強い寒気の影響を受け、北日本を中心に顕著な低温となった時期がありましたが、中旬には東・西日本中心に各地で夏日となるなど顕著に気温が高くなった時期がありました。下旬も南からの暖かい気流の影響で気温が高くなった時期があるなど、月を通して北日本から西日本にかけて気温の変動が大きくなりました。

なお、下旬のはじめと終わりには、暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により、西日本の太平洋側を中心に大雨となり、宿毛（高知県）では10月の日降水量の多い方からの一位を更新するなど、九州南部、四国などで記録的な大雨となったところがありました。

沖縄・奄美では、上・中旬は気圧の谷や湿った気流の影響により曇りや雨の日が多くなりましたが、下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

月平均気温は、北日本で高く、東・西日本、沖縄・奄美で平年並でした。月降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、西日本で多くなりました。延岡（宮崎県）では10月の月降水量の多い方からの一位を更新しました。北日本日本海側、北・東日本太平洋側では平年並で、東日本の日本海側では少なくなりました。月間日照時間は、沖縄・奄美でかなり少なく、西日本で少なくなりました。北日本、東日本の太平洋側では平年並で、東日本の日本海側では多くなりました。石垣島（沖縄県）で10月の月間日照時間の少ない方からの一位を更新しました。

### 【10月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では例年値<sup>（注）</sup>より6ポイント高い78%でした。地方毎の適中率では北海道地方、関東甲信地方及び東海地方で10～14ポイント高くなりました。九州南部地方と沖縄地方では5ポイント低くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値より小さく、四国地方と九州南部地方では例年値より0.5小さくなり、全国平均では1.8になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値と同じか例年値より小さく、近畿地方、九州北部地方及び九州南部地方では例年値より0.5～0.6小さくなり、全国平均では1.8になりました。

<sup>（注）</sup>例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【12月の週間天気予報の利用にあたって】

12月は低気圧が通り過ぎるごとに北から冷たい空気が流れ込んで寒くなり、北日本では本格的な雪の季節が始まります。北海道地方では雪への対策が必要な時期ですが、東北地方より南では雨が降ることも多く、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。

降水が雨となるか雪となるかは、主に地上付近の気温等によりますが、湿度や上空の気温などによっても違います。天気予報では、雨ではなく雪となる地域や時間帯の割合が大きいときは「雪か雨」、また、雪に比べ雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。雪になると交通機関などに大きな影響がありますので、週間天気予報で雪の予報が出ているときは、事前に雪への備えが必要となります。